

ICD-11の我が国への適用に向けて



厚生労働省 政策統括官(統計・情報政策、政策評価担当)付
参事官付 国際分類情報管理室
日本WHO国際統計分類協力センター
森 桂

ICDと日本

International Statistical Classification of
Diseases and Related Health Problems

世界保健機関（WHO）

□ 世界保健機関憲章

第64条 各加盟国は、保健総会が決定した方法によって、統計的及び疫学的報告を提出しなければならない。

□ 世界保健機関分類規則

第2条 死亡及び疾病作成する各加盟国は、世界保健総会がその都度採択する国際疾病、傷害及び死因統計分類の現行の改訂に基づいて、これを行うものとする。この分類は、引用に際しては、国際疾病分類と称することができる。

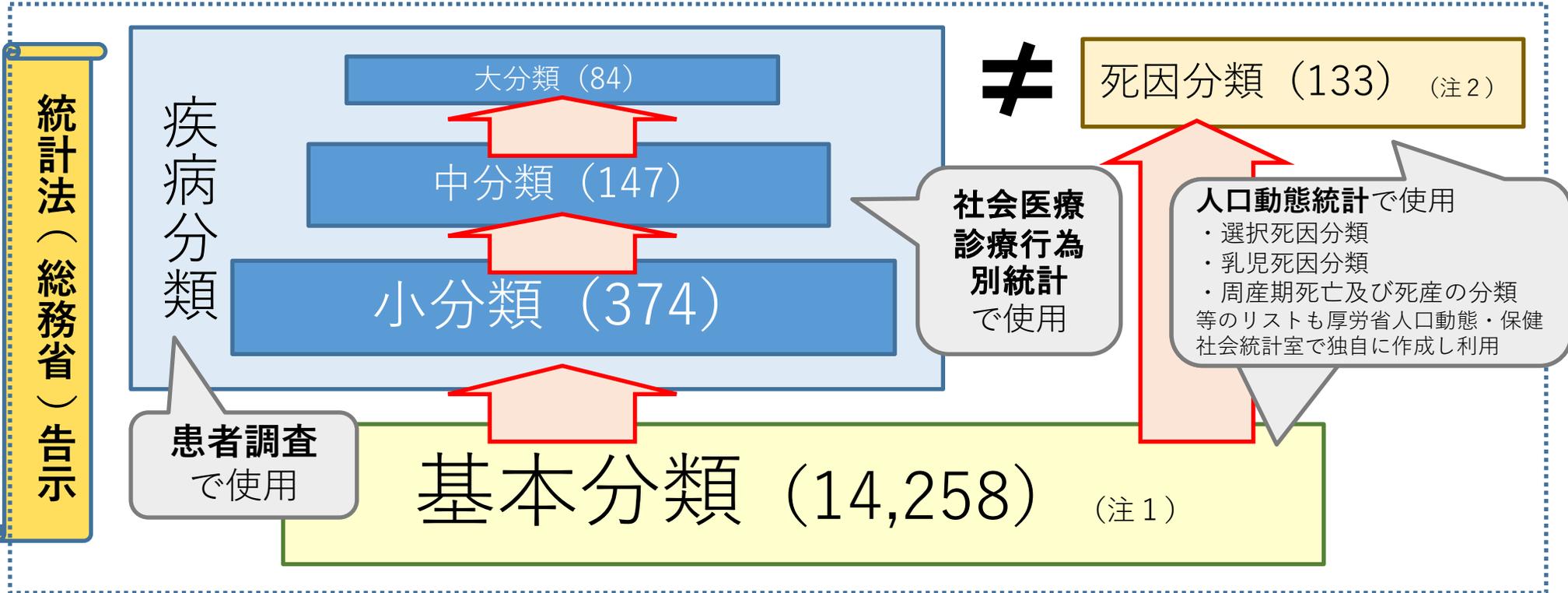
第3条 死亡及び疾病統計の作成公表にあたっては、各加盟国は、分類、符号処理、年齢区分、地域区分、その他の関連した定義及び基準について、世界保健総会が作成した勧告に、できる限り従わなければならない。

第6条 各加盟国は、本機関より依頼された場合、憲章第64条の規定に基づき、この規則に従って作成された統計及び憲章第63条の規定により通報されない統計を提出しなければならない。

ICD改訂の歴史

ICD版		分類項目数(細項目)	国内適用期間 (告示改正)
第1	1900年 (明治33年)	179 (-)	明治32年 ~ 明治41年
第2	1909年 (明治42年)	189 (-)	明治42年 ~ 大正11年
第3	1920年 (大正 9年)	205 (-)	大正12年 ~ 昭和 7年
第4	1929年 (昭和 4年)	200 (-)	昭和 8年 ~ 昭和20年
第5	1938年 (昭和13年)	200 (-)	昭和21年 ~ 昭和24年
第6	1948年 (昭和23年)	953 (-)	昭和25年 ~ 昭和32年
第7	1955年 (昭和30年)	953 (-)	昭和33年 ~ 昭和42年
第8	1965年 (昭和40年)	1,040 (3,489)	昭和43年 ~ 昭和53年
第9	1975年 (昭和50年)	1,179 (7,130)	昭和54年 ~ 平成 6年
第10	1990年 (平成 2年)	2,036 (14,195)	平成 7年 ~ 平成17年 (1995年)
	2003年 (平成15年)	2,045 (14,258)	平成18年 ~ 平成27年 (2006年)
	2013年 (平成25年)	2,053 (14,609)	平成28年 ~ (2016年)
第11	2019年 (平成31年) 予定		

疾病、傷害及び死因の統計分類

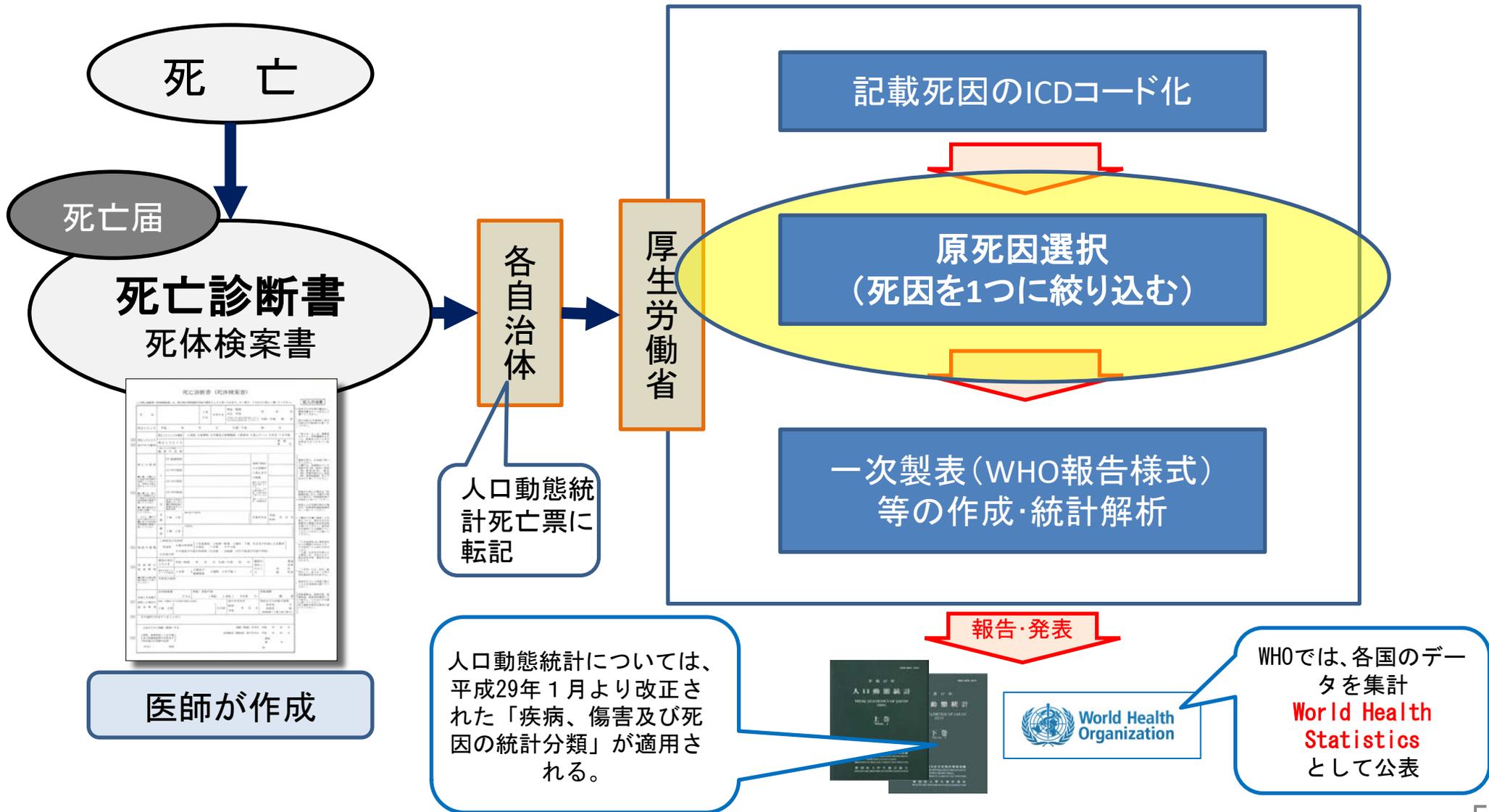


項目数：基本分類 > 疾病分類（小分類） > 疾病分類（中分類） > 死因分類 > 疾病分類（大分類）

注1：人口動態統計では、「人口動態死因統計分類基本分類（死因基本分類）」との名称を使用している。

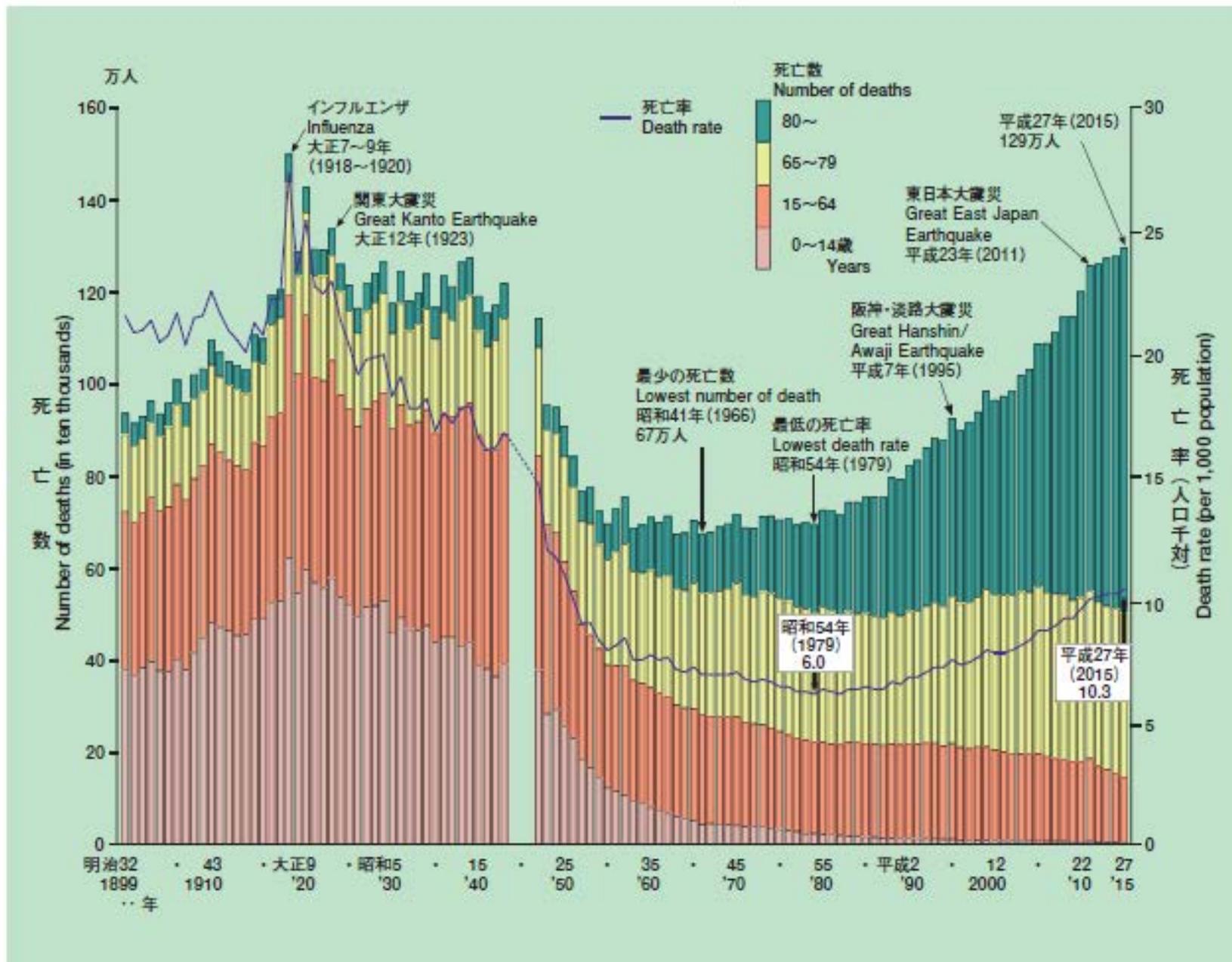
注2：人口動態統計では、「死因簡単分類」の名称で利用している。

人口動態統計

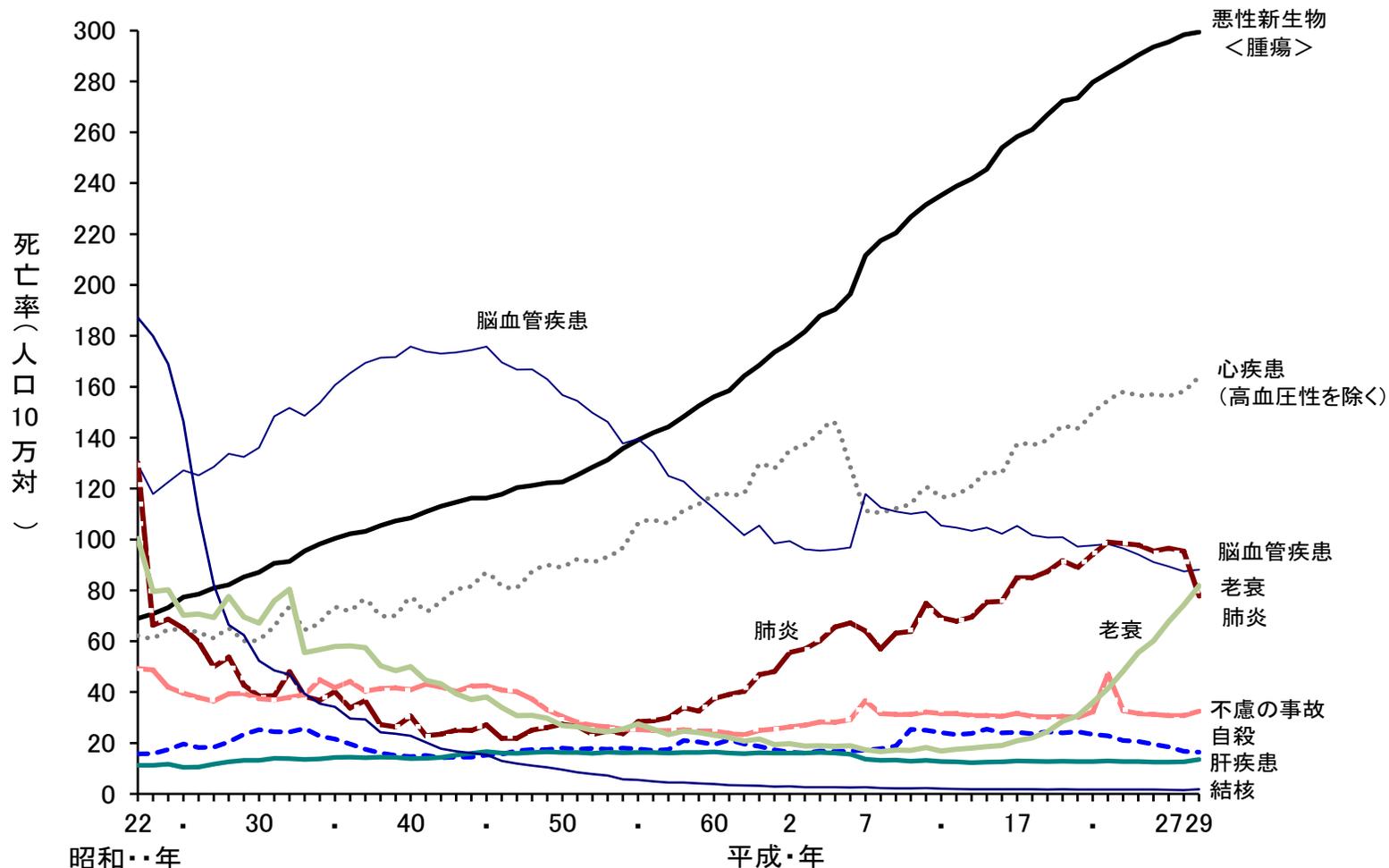


死亡数及び死亡率の年次推移—明治32～平成27年—

Trends in deaths and death rates, 1899-2015



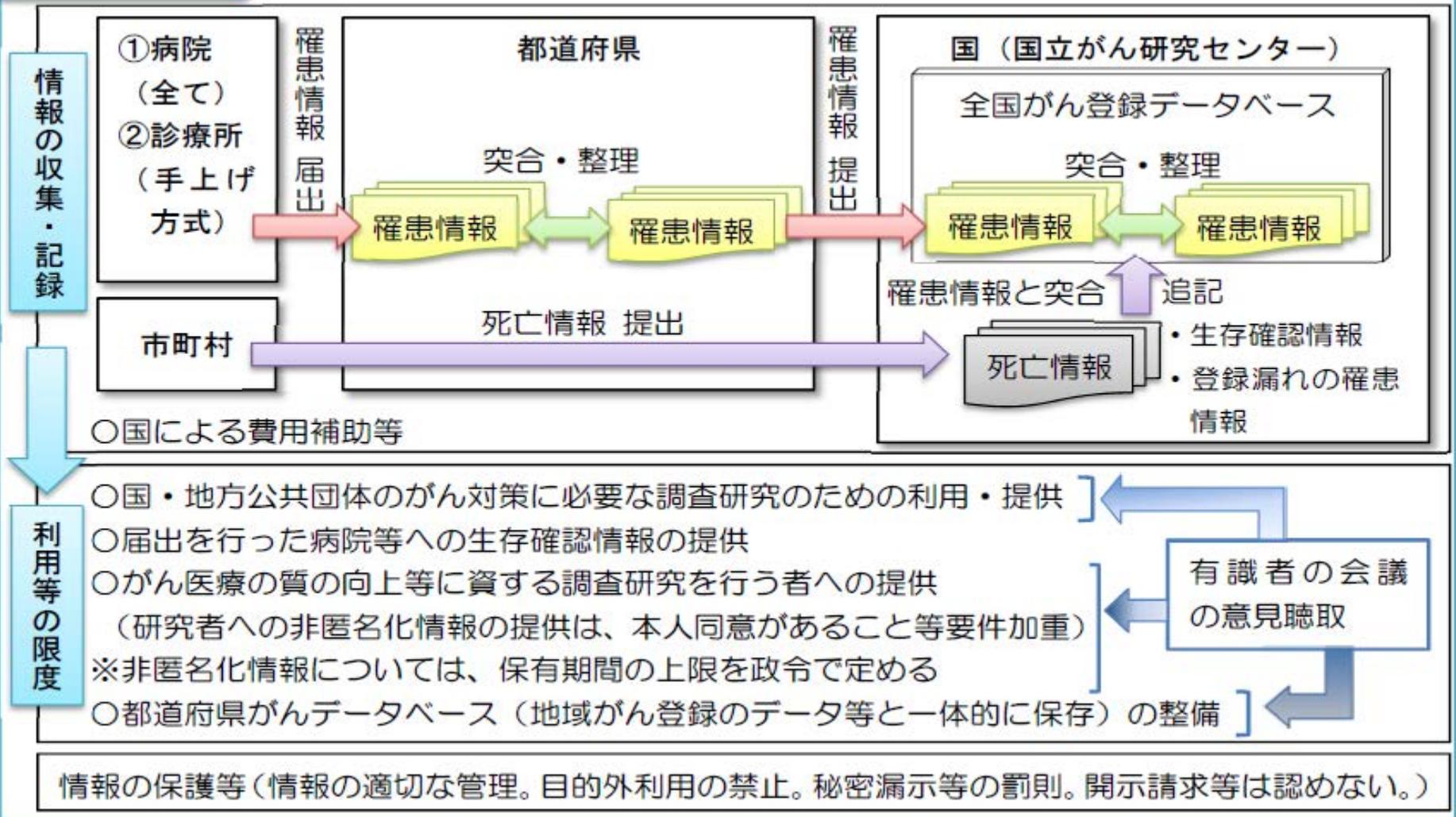
主な死因別死亡率の年次推移



- 注：1) 平成6年までの「心疾患（高血圧性を除く）」は、「心疾患」である。
 2) 平成6・7年の「心疾患（高血圧性を除く）」の低下は、死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。
 3) 平成7年の「脳血管疾患」の上昇の主な要因は、ICD-10（2003年版）（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの特長によるものと考えられる。
 4) 平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、ICD-10（2013年版）（平成29年1月適用）による原死因選択ルールの特長によるものと考えられる。

がん登録推進法

全国がん登録



ICD – 11

International Statistical Classification of
Diseases and Related Health Problems
11th version

ICD-11の特徴

- 日進月歩の基礎医学・臨床医学・公衆衛生の分野における新しい知見を導入
→ 医学の専門家を中心とした検討
- 複数の使用目的を想定、柔軟なコーディング
→ 疾病・死亡統計、プライマリケア、臨床、研究 等
→ エクステンションコード 等
- 伝統医学を新たに導入 → まずは日中韓の伝統医学（漢方医学）
- 電子環境での活用を前提としたシステム
→ ウェブサイトを介した分類提供、コーディング・ツール等の開発 等
- 病名コードだけでなく、内容（疾患概念）を含めた情報体系へと進化
→ 分類項目にかかる説明、病名（索引用語）を追加
(将来的には内容：症状所見的／解剖学的／組織病理学的／遺伝学的etc.)

ICD-11の開発経緯

- 2007年 ICD-11改訂作業開始をプレス発表（東京）
WHOの改訂組織において、専門分野別部会等の共同議長をはじめ多くの日本の医学の専門家・団体が貢献
- 2016年 WHO世界保健総会（WHA）へ経過報告
 - 10月 ICD-11改訂会議（東京）
加盟国レビューの実施
- 2017年 日本医学会、日本歯科医学会、ICD専門委員会、日本WHO国際統計分類協力センター等からの意見を取りまとめ、WHOへ提出
- 2018年 6月 ICD-11 Version for Implementation公表
- 2019年 5月 WHO世界保健総会（WHA）に提出（予定）
- 2022年 ICD-11発効

ICD-11改訂に向けた 検討組織

2016年10月まで

医療情報 TAG
(HIM TAG) / Alan Rector (英)

iCATソフトウェアチ
ーム

疾病分類 TAG
Donna Pickett (米)

死因分類 TAG
James E Hinkins (豪)
Robert Anderson (米)

生活機能分類 TAG
Cille Kennedy (米)

医療安全 TAG
William Ghali (加)
Harold Pincus (米)

分野横断TAGs

WHO

分類改正改訂委員会 (URC)

改訂運営会議 (RSG) / Chris Chute (米)

内科 TAG / Naoko Tajima (日)

小児科 TAG / Jeffrey F. Linzer (米)

歯科 TAG / Ramon Baez (英)

皮膚科 TAG / Robert J G Chalmers (英)

稀な疾患 TAG / Segolene Ayme (仏)

外因 TAG / James Harrison (豪)

リプロダクティブ TAG / Jane Norman (英)

精神 TAG / Steve Hyman (米)

筋骨格 TAG / Shinsuke Kato (日)

腫瘍 TAG / Maxwell Parkin (英)

神経 TAG / Raad A. Shakir (英)

眼科 TAG / Satoshi Kashii (日)

伝統医学 TAG / Kenji Watanabe (日)

分野別TAGs

消化器 WG
Peter Malfertheiner (独)
Soichiro Miura (日)

循環器 WG
Rodney Franklin (英)
Bernard J. Gersh (米)

肝・胆・膵 WG
Geoff Farrell (豪)
Sumiko Nagoshi (日)

腎臓 WG
Gavin Becker (豪)
Kunitoshi Iseki (日)

内分泌 WG
Akira Shimatsu (日)
Edward Gregg (米)

リウマチ WG
Jonathan Kay (米)
Masayoshi Harigai (日)

血液 WG
Willem E. Fibbe (蘭)
Shinichiro Okamoto (日)

呼吸器 WG
Hajime Takizawa (日)

ワーキンググループ

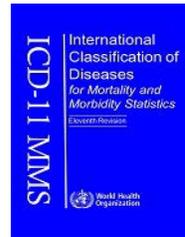
ICD-10

- 第1章 感染症及び寄生虫症
- 第2章 新生物
- 第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
- 第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患
- 第5章 精神及び行動の障害
- 第6章 神経系の疾患

- 第7章 眼及び付属器の疾患
- 第8章 耳及び乳様突起の疾患
- 第9章 循環器系の疾患
- 第10章 呼吸器系の疾患
- 第11章 消化器系の疾患
- 第12章 皮膚及び皮下組織の疾患
- 第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患
- 第14章 腎尿路生殖器系の疾患

ICD-11

- 第1章 感染症又は寄生虫症
- 第2章 新生物
- 第3章 血液又は造血器の疾患
- 第4章 免疫系の疾患
- 第5章 内分泌、栄養又は代謝疾患
- 第6章 精神、行動又は神経発達の障害
- 第7章 睡眠・覚醒障害
- 第8章 神経系の疾患
- 第9章 視覚系の疾患
- 第10章 耳又は乳様突起の疾患
- 第11章 循環器系の疾患
- 第12章 呼吸器系の疾患
- 第13章 消化器系の疾患
- 第14章 皮膚の疾患
- 第15章 筋骨格系又は結合組織の疾患
- 第16章 腎尿路生殖器系の疾患
- 第17章 性保健健康関連の病態



2018年6月現在

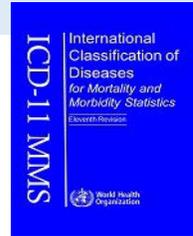
ICD-11 死亡・疾病統計用分類 (ICD-11 MMS) の構成② (仮訳)

ICD-10

- 第15章 妊娠, 分娩及び産じょく < 褥 >
- 第16章 周産期に発生した病態
- 第17章 先天奇形, 変形及び染色体異常
- 第18章 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
- 第19章 損傷, 中毒及びその他の外因の影響
- 第20章 傷病及び死亡の外因
- 第21章 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用
- 第22章 特殊目的用コード

ICD-11

- 第18章 妊娠、分娩又は産褥
- 第19章 周産期に発生した病態
- 第20章 発達異常
- 第21章 症状、徴候又は臨床所見、他に分類されないもの
- 第22章 損傷、中毒又はその他の外因の影響
- 第23章 傷病又は死亡の外因
- 第24章 健康状態に影響を及ぼす要因又は保健サービスの利用
- 第25章 特殊目的用コード
- 第26章 伝統医学の病態・モジュール I
- 第V章 生活機能評価に関する補助セクション
- 第X章 エクステンションコード



2018年6月現在

コード数

約14,000



約18,000*

※1~26章のコードのある分類項目数

※V章、X章のコード数は、約14,000

出典：ICD-11公表版（6/18付）、Simple Tabulationファイル

※下線は、新しく追加された章

※ICD-11の構成は、歴史的精査に耐えてきた構造として、流行病、全身性の疾患、部位別の疾患、発達性の疾患、損傷という基本的な形を維持。第1~4、18~20、22章は、疫学的にまとめることが適当な病態として「special groups」の章、その他の章は、「body systems」の章とされ、病態の位置づけは一般的には前者優先とされている。

出典：ICD-11 Reference Guide 1.2.2 Chapter Structure

ICD-10からICD-11 へ (分類の詳細化)

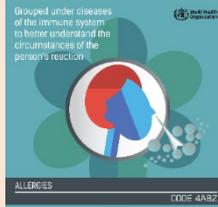
ICD-10	ICD-11
<p>G20 パーキンソン病</p> <p>G21 続発性パーキンソン症候群</p> <p> G21.0 悪性症候群</p> <p> G21.1 その他の薬物誘発性続発性パーキンソン症候群</p> <p> G21.2 その他の外因による続発性パーキンソン症候群</p> <p> G21.3 脳炎後パーキンソン症候群</p> <p> G21.4 血管性パーキンソン症候群</p> <p> G21.8 その他の続発性パーキンソン症候群</p> <p> G21.9 続発性パーキンソン症候群, 詳細不明</p> <p>G22* 他に分類される疾患におけるパーキンソン症候群</p>	<p>8A00 パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.0 パーキンソン病</p> <p> 8A00.00 孤発性パーキンソン病</p> <p> 8A00.01 家族性パーキンソン病</p> <p> 8A00.0Y その他の明示されたパーキンソン病</p> <p> 8A00.0Z パーキンソン病, 詳細不明</p> <p> 8A00.1 非定型パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.10 進行性核上性麻痺</p> <p> 8A00.1Y その他の明示された非定型パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.1Z 非定型パーキンソン症候群, 詳細不明</p> <p> 8A00.2 続発性パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.20 変性遺伝性疾患によるパーキンソン症候群</p> <p> 8A00.21 片側萎縮片側パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.22 感染・感染後パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.23 血管性パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.24 薬物誘発性パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.25 外傷後パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.26 構造的病変によるパーキンソン症候群</p> <p> 8A00.2Y その他の明示された続発性パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.2Z 続発性パーキンソン症候群, 詳細不明</p> <p> 8A00.3 機能性パーキンソン症候群</p> <p> 8A00.Y その他の明示されたパーキンソン症候群</p> <p> 8A00.Z パーキンソン症候群, 詳細不明</p>

ICD-10からICD-11 へ (分類軸の変更)

ICD-10	ICD-11
C34 気管支又は肺の悪性新生物	2C25 気管支又は肺の悪性新生物
C34.0 上葉, 気管支又は肺	2C25.0 気管支又は肺の腺癌
C34.1 中葉, 気管支又は肺	2C25.1 気管支又は肺の小細胞癌
C34.2 下葉, 気管支又は肺	2C25.2 気管支又は肺の扁平上皮癌
C34.8 気管支及び肺の境界部病巣	2C25.3 気管支又は肺の大細胞癌
C34.9 気管支又は肺, 部位不明	2C25.4 気管支又は肺のカルチノイドその他の神経内分泌腫瘍
	2C25.5 気管支又は肺の詳細不明の悪性上皮性腫瘍
	2C25.Y その他の明示された気管支又は肺の悪性新生物
	2C25.Z 気管支又は肺の悪性新生物, 詳細不明

※ICD-11 MMS (2018/6/18), 仮訳

ICD-10からICD-11へ (章の新設：免疫系の疾患)

ICD-10	ICD-11
<p>第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</p> <p>D70-D77 血液及び造血器のその他の疾患 D70 無顆粒球症、好中球減少症 等</p> <p>D80-D89 免疫機構の障害 D86 サルコイドーシス 等</p> <p>第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患</p> <p>M30-M36 全身性結合組織障害 M32 全身性エリテマトーデス (SLE) M33 皮膚筋炎 M34 全身性強皮症 M35 その他の全身結合組織疾患 M35.2 ベーチェット病 等</p> <p>第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響</p> <p>T78 有害作用、他に分類されないもの 食物アレルギー、アナフィラキシーショック 等</p> <p>第20章 傷病及び死亡の外因</p> <p>X23 ハチとの接触 Y40-Y59 有害作用を引き起こした薬物 等</p> <p>※死亡統計では、アナフィラキシーによる死亡は、原死因は20章でコードし、第19章のコードを付加する。</p>	<p>第4章 免疫系の疾患</p> <p>原発性免疫不全症 後天性免疫不全症</p> <p>4A20 臓器非特異的全身性自己免疫疾患 4A40.0 全身性エリテマトーデス 等 自己炎症疾患 4A62 ベーチェット病 等 アレルギー性又は過敏性の病態 4A84 アナフィラキシー 4A8Y アレルギー 等 白血球系統に係る免疫系疾患 4B00.0 好中球減少症 等 免疫系に係る特定の病態 4B20 サルコイドーシス 等</p> <p>4B40 胸腺の疾患 4B4Y その他の明示された免疫系の疾患 4B4Z 免疫系の疾患、詳細不明</p> <div data-bbox="1450 1021 1906 1242" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>アレルギー ヒトの反応の状況をよりよく理解するために免疫系の疾患の下にグルーピング</p> </div>

※ICD-11 MMS (2018/6/18), 仮訳

ICD-10	ICD-11
<p>第4章 内分泌，栄養及び代謝疾患 E66.2 肥満低換気症候群</p> <p>第5章 精神及び行動の障害 F45 身体表現性障害 歯ぎしり 等</p> <p>F51 非器質性睡眠障害 F51.0 非器質性不眠症 F51.1 非器質性過眠症 F51.2 非器質性睡眠・覚醒スケジュール障害 F51.3 夢遊症 F51.4 夜驚症 F51.5 悪夢</p> <p>第6章 神経系の疾患 G25.8 その他の異常運動 むずむず脚症候群</p> <p>G47 睡眠障害（器質性） G47.0 不眠症 G47.1 過眠症 G47.2 睡眠・覚醒スケジュール障害 G47.3 睡眠時無呼吸 G47.4 ナルコレプシー G47.8 その他の睡眠障害 G47.9 睡眠障害，詳細不明</p>	<p>第7章 睡眠・覚醒障害 不眠症 過眠症</p> <p>7A20 ナルコレプシー 等</p> <p>睡眠関連呼吸障害 7A40 中枢性睡眠時無呼吸 7A42.0 肥満低換気症候群 等</p> <p>概日リズム睡眠・覚醒障害 睡眠関連運動障害 7A80 むずむず脚症候群 7A83 睡眠関連歯ぎしり 等</p> <p>睡眠時随伴症 ノンレム睡眠からの覚醒障害 7B00.1 睡眠時遊行症 7B00.2 睡眠時驚愕症 等</p> <p>レム睡眠関連睡眠時随伴症 7B01.0 レム睡眠行動障害 7B01.1 反復性弧発性睡眠麻痺 7B01.2 悪夢障害 等</p> <p>7B2Y その他の明示された睡眠・覚醒障害 7B2Z 睡眠・覚醒障害，詳細不明</p>

※ICD-11 MMS (2018/6/18), 仮訳

ICD-10からICD-11へ (章の新設：性保健健康関連の病態)

ICD-10	ICD-11
<p>第5章 精神及び行動の障害</p> <p>F52 性機能不全，器質性障害又は疾病によらないもの</p> <p>F64 性同一性障害 (Gender identity disorder)</p> <p>第14章 腎尿路生殖器系の疾患</p> <p>N94 女性生殖器及び月経周期に関連する疼痛及びその他の病態</p> <p>N94.1性交疼痛</p> <div data-bbox="472 921 913 1139" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>性別不合 性別不合（トランスジェンダー）は精神障害に分類されなくなった。これによりスティグマが減り、ケアを向上するだろう。</p> </div>	<p>第17章 性保健健康関連の病態</p> <p>性機能不全 (Sexual dysfunctions)</p> <p>性欲低下症、性的興奮不全、オルガズム不全、射精不全</p> <p>性疼痛障害 (Sexual pain disorders)</p> <p>性疼痛・挿入困難症</p> <p>性機能不全及び性疼痛障害における病因的事項</p> <p>医学的病態又は損傷等に伴うもの、精神障害に伴うもの、物質使用に伴うもの 等</p> <p>性別不合 (Gender incongruence)</p> <p>青年期又は成人期の性別不合、小児期の性別不合</p> <p>第16章 腎尿路生殖器系の疾患</p> <p>女性生殖器の非炎症性障害</p> <p>性交疼痛</p>

※「主に性的伝播による感染症 (Predominantly sexually transmitted infections)」は、第一次製表では、ICD-10と同じく、第1章に分類されるが、第17章にもダブルペアレントされており、用途に応じて集計することが可能となっている。これには、梅毒、クラミジアやヘルペスウイルスによる性感染症、HIV病等が含まれる。

ICD-11

第26章 伝統医学の病態－モジュールI

伝統医学疾病 (TM1)

証 (TM1)

基本となる証 (陰陽・虚実・寒熱・表裏) (TM1)

熱証 (TM1)、寒証 (TM1)、実証 (TM1)、虚証 (TM1)、

寒熱中間証 (TM1)、虚実中間証 (TM1)、寒熱錯雑証 (TM1) 等

環境証 (TM1)

気血水の証 (TM1)

臓腑病証 (TM1)

経絡病証 (TM1)

正経病証 (TM1)、奇経八脈病証 (TM1)

六病位 (TM1)

三焦証 (TM1)

衛気営血証 (TM1)

四象体質病証 (TM1)



【デスクリプションより抜粋 (抄)】

※本章は、死亡報告 (訳注：国際的な死亡データ報告) には使用しない。「TM1」は、伝統医学の病態－モジュールIを意味する。通常の医学的概念と明確に区別できるよう、本章のすべての伝統医学の診断カテゴリーには (TM1) が付されている。

※「伝統医学疾病 (TM1)」は、特定の症状、徴候等とともに発現する身体系の機能不全をいう。

※「証 (TM1)」は、総体的徴候 (訳注：脈診、舌診、腹部診察等による所見) 及び患者の体質を含む患者の臨床像全体をいう。

ICD-10からICD-11 へ (章の新設：生活機能評価に関する補助セクション)

ICD-11

第V章 生活機能評価に関する補助セクション

－ WHODAS 2.0 36項目版

- 認知
- 運動・移動
- セルフケア (WHODAS関連項目)
- 他者との交流
- 日常活動
- 社会参加及び健康問題の影響

－ 簡易版モデル障害調査

- 視覚及び関連機能
- 聴覚と前庭の機能
- 精神機能
- 感覚機能と痛み

－ 基本的機能の領域

- 音声と発話の機能
- 心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能
- 消化器系・代謝系・内分泌系の機能
- 尿路・性・生殖の機能
- 神経筋骨格と運動に関連する機能
- 皮膚及び関連する構造の機能
- 一般的な課題と要求
- 運動・移動
- セルフケア
- 家庭生活
- 対人関係
- 学習と知識の応用
- コミュニケーション
- 主要な生活領域
- コミュニティライフ・社会生活・市民生活
- 精神機能
- 感覚機能と痛み

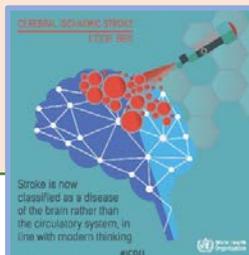
【デスクリプションより】

※このセクションでは、健康に関連する生活機能のレベルを記述し定量化するのに適した、個人の生活機能の概略（プロファイル）とスコアを作成することができる。生活機能評価に用いられるように、このセクションにはWHOによって開発されたICFに基づく2つのツール（「WHO障害評価面接基準 (WHODAS 2.0 36項目版)」と「モデル障害調査 (MDS)」）の項目を含んでいる。

※「基本的機能の領域」は、国際生活機能分類 付録9 “理想のおよび最低限の健康情報システムまたは調査のために提案されたICFデータの要件”より

ICD-10からICD-11へ (脳血管疾患の移動)

ICD-10	ICD-11
<p>第6章 神経系の疾患 G45 一過性脳虚血発作及び関連症候群</p> <p>第9章 循環器系の疾患 I60-I69 脳血管疾患 I60 くも膜下出血 I61 脳内出血 I62 その他の非外傷性頭蓋内出血 I63 脳梗塞 I64 脳卒中, 脳出血又は脳梗塞と明示されないもの I65 脳実質外動脈の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの I66 脳動脈の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの I67 その他の脳血管疾患 I68* 他に分類される疾患における脳血管障害 I69 脳血管疾患の続発・後遺症</p>	<p>第8章 神経系の疾患 脳血管疾患 頭蓋内出血 8B00 脳内出血 8B01 くも膜下出血 8B02 非外傷性硬膜下出血 8B03 非外傷性硬膜外出血 脳虚血 8B10 一過性虚血発作 8B11 虚血性脳卒中 8B20 虚血性か出血性か不明な脳卒中 8B21 脳の急性症状を伴わない脳血管疾患 無症候性脳梗塞 等 8B22 特定の明示された脳血管疾患 脳動脈解離、脳静脈血栓症 等 8B24 低酸素生虚血性脳症 8B25 脳血管疾患後遺症 8B26 脳血管疾患における脳の血管性症候群</p>



虚血性脳卒中

脳卒中は、現代的な考えに沿って、循環器系の疾患ではなく、脳の疾患に分類される。

※ICD-11 MMS (2018/6/18), 仮訳

ICD-10からICD-11 へ (章の新設 : エクステンションコード)

X章 エクステンションコード		主な内容
重症度値	Severity Scale Value	重症度、ステージ
時間軸	Temporality	無症候性～再発性、続発症の別；急性・慢性の別
病因	Aetiology	感染病原菌
局所スケール	Topology Scale Value	左右の別、広汎性・限局性の別
解剖学的詳細	Specific Anatomic Detail	部位
組織病理	Histopathology	新生物におけるより詳細な組織的分類
損傷の状況	Dimensions of injury	火傷や骨折の範囲・種類
外因の状況	Dimensions of external causes	不慮・故意の別、発生場所
意識レベル	Consciousness	グラスゴー・コーマ・スケール (GCS) によるスコア
物質	Substances	各種化学物質、薬剤
診断の状況	Diagnosis code descriptors	受診又は入院の理由、医療資源病態、入院後に発症
背景状況	Capacity or context	周産期死亡での使用を想定

※ICD-11 MMS (2018/6/18), 仮訳

ICD-10からICD-11へ（URI（ユニークID）の活用）

- ICD-11では、分類コードだけでなく、URI（Uniform Resource Identifier）を用いてより詳細な情報管理が可能となった。
- 詳細さに応じ、ICDコード、ファウンデーションID、用語IDを使用することができる（但し、用語IDは、現時点ではバックグラウンドのみで使用）。

例（指定難病の把握）：

- 筋萎縮性側索硬化症→疾患概念の範囲が、MMSの分類項目8B60.0と同じなので、ICDコードで疾患の特定可能
- 球脊髄性筋萎縮症→疾患概念が、8B61.4限局性脊髄性筋萎縮症よりも狭いため、ICDコードだけでは、疾患の特定が難しいが、目的に応じて、ファウンデーションID（<http://id.who.int/icd/entity/1604214898>）を用いることにより、より詳細なデータ把握が可能となる。

※仮訳

指定難病の例		ICD-11	ファウンデーションID
1	球脊髄性筋萎縮症	Bulbospinal muscular atrophy	8B61.4 http://id.who.int/icd/entity/1604214898
2	筋萎縮性側索硬化症	Amyotrophic lateral sclerosis	8B60.0 http://id.who.int/icd/entity/1982355687
3	脊髄性筋萎縮症	Spinal muscular atrophy	8B61.Z http://id.who.int/icd/entity/71074342
4	原発性側索硬化症	Primary lateral sclerosis	8B60.4 http://id.who.int/icd/entity/1686688462
5	進行性核上性麻痺	Progressive supranuclear palsy	8A00.10 http://id.who.int/icd/entity/1493396558
6	パーキンソン病	Parkinson disease	8A00.0Z http://id.who.int/icd/entity/296066191
7	大脳皮質基底核変性症	Corticobasal degeneration	8A00.1Y http://id.who.int/icd/entity/348567584
8	ハンチントン病	Huntington disease	8A01.10 http://id.who.int/icd/entity/2132180242
9	神経有棘赤血球症	Neuroacanthocytosis	3A10.Y http://id.who.int/icd/entity/1012724153
10	シャルコー・マリー・トゥース病	Charcot-Marie-Tooth disease	8C21.Z

※ICD-11 MMS (2018/6/18), 仮訳

ICD-10からICD-11へ (分類項目の内容充実)

ICD-11 (Mortality and Morbidity Statistics)

Search

[Advanced Search]

Foundation

Linearizations

Contributions

Info

More...

Last Update: Jun 26

- ICD-11 - Mortality and Morbidity Statistics
 - 01 Certain infectious or parasitic diseases
 - 02 Neoplasms
 - 03 Diseases of the blood or blood-forming organs
 - 04 Diseases of the immune system
 - 05 Endocrine, nutritional or metabolic diseases
 - 06 Mental, behavioural or neurodevelopmental disorders
 - 07 Sleep-wake disorders
 - 08 Diseases of the nervous system
 - 09 Diseases of the visual system
 - 10 Diseases of the ear or mastoid process
 - 11 Diseases of the circulatory system
 - 12 Diseases of the respiratory system
 - Upper respiratory tract disorders
 - CA00 Acute nasopharyngitis**
 - CA01 Acute sinusitis
 - CA02 Acute pharyngitis
 - CA03 Acute tonsillitis
 - CA04 Acute laryngopharyngitis
 - CA05 Acute laryngitis or tracheitis
 - CA06 Acute obstructive laryngitis or epiglottitis
 - CA07 Acute upper respiratory infections of multiple and unspecified sites
 - CA08 Vasomotor or allergic rhinitis
 - CA09 Chronic rhinitis, nasopharyngitis or pharyngitis
 - CA0A Chronic rhinosinusitis
 - CA0B Silent sinus syndrome
 - CA0C Cyst or mucocele of nose or nasal sinus
 - CA0D Deviated nasal septum
 - CA0E Hypertrophy of nasal turbinates
 - CA0F Chronic diseases of tonsils or adenoids
 - CA0G Chronic laryngitis or laryngotracheitis
 - CA0H Diseases of vocal cords or larynx, not elsewhere classified
 - CA0J Nasal polyp
 - CA0K Abscess of upper respiratory tract
 - CA0L Dyskinesia trachea
 - CA0M Trachea ossification
 - CA0N Perichondritis of trachea
 - CA0P Trachea stricture
 - CA0Q Tracheomalacia
 - CA0R Rhinoscleroma

Foundation Id : <http://id.who.int/icd/entity/2066255370>

CA00 Acute nasopharyngitis

①分類名

Parent

Upper respiratory tract disorders

Show all ancestors

ICD-10: J00

Description

A disease of the upper respiratory tract, caused by an infection of the nose and throat. This disease is characterized by pharyngitis, runny nose, stuffy nose, or cough. Transmission is by inhalation of infected respiratory secretions, or direct contact.

③解説文

Additional Information

The common cold (also known as nasopharyngitis, rhinopharyngitis, acute coryza, or a cold) is a viral infectious disease of the upper respiratory system which affects primarily the nose. The meaning of nasopharynx is the same as epipharynx however the term nasopharyngitis is generally used when the disease involves the nose, pharynx and larynx. Often called "a cold" indicates a "common cold infection". The cause of nasopharyngitis is 90% by a viral infection, other causes include bacterial or mycoplasma infections. Patients with nasopharyngitis present with cough, pharyngeal pain, running nose, stuffy nose as local symptoms, and increasing fever, general fatigue and headache as general symptoms. These symptoms usually resolve in seven to ten days, with some symptoms lasting up to three weeks.

④追加情報

Exclusions

- Chronic nasopharyngitis (CA09.1)
- pharyngitis NOS (CA02)
- Acute pharyngitis (CA02)
- Chronic pharyngitis (CA09.2)
- rhinitis NOS (CA09.0)
- sore throat NOS (CA00-CA0Z)
- Vasomotor rhinitis (CA08.3)
- Chronic rhinitis (CA09.0)
- Allergic rhinitis (CA08.0)
- acute sore throat (CA02)
- chronic sore throat (CA09.2)

⑤除外用語

All Index Terms

- Acute nasopharyngitis
- acute infective rhinitis
- cold
- common cold
- coryza
- head cold
- infective nasopharyngitis
- Rhinopharyngitis
- acute coryza
- acute nasal catarrh
- acute rhinitis
- infective rhinitis
- acute nasopharyngitis

Hide index terms

②索引用語

死亡・疾病統計用分類 (ICD-11 MMS: Mortality and Morbidity Statistics)

Proposals

ICD-11のコード体系

1桁目 章を表す 英数字	2桁目 英字	3桁目 数字	4桁目 英数字	5桁目 英数字	6桁目 英数字	7桁目 英数字
E	D	1	E	.	E	E (E)

例：

- 脾周囲炎 **3B81.A**
Perisplenitis
- 胃潰瘍，詳細不明 **DA60.Z**
Gastric ulcer, unspecified
- 慢性腎臓病ステージ3 **GB61.2**
Chronic kidney disease, stage 3

※2桁目は必ず英字（ICD-10コードと混同しないように）

※英字には、O、I（オーとアイ）は使用されない

※ICD-10の「その他」と「詳細不明」即ち「.8」「.9」は、ICD-11では、「.Y」「.Z」

ICD-11の章（章・コード番号早見表）

章番号	1桁目		章番号	1桁目	
1	1	感染症	15	F	筋骨格
2	2	新生物	16	G	泌尿器
3	3	血液	17	H	性保健
4	4	免疫	18	J	妊娠
5	5	内分泌	19	K	周産期
6	6	精神	20	L	発達異常
7	7	睡眠障害	21	M	症状
8	8	神経	22	N	損傷
9	9	視覚	23	P	外因
10	A	耳	24	Q	保健サービス
11	B	循環器	25	R	特殊
12	C	呼吸器	26	S	伝統医学 ^{TM1}
13	D	消化器	V	V	生活機能
14	E	皮膚	X	X	エクステンション

Agreed Updating Cycle

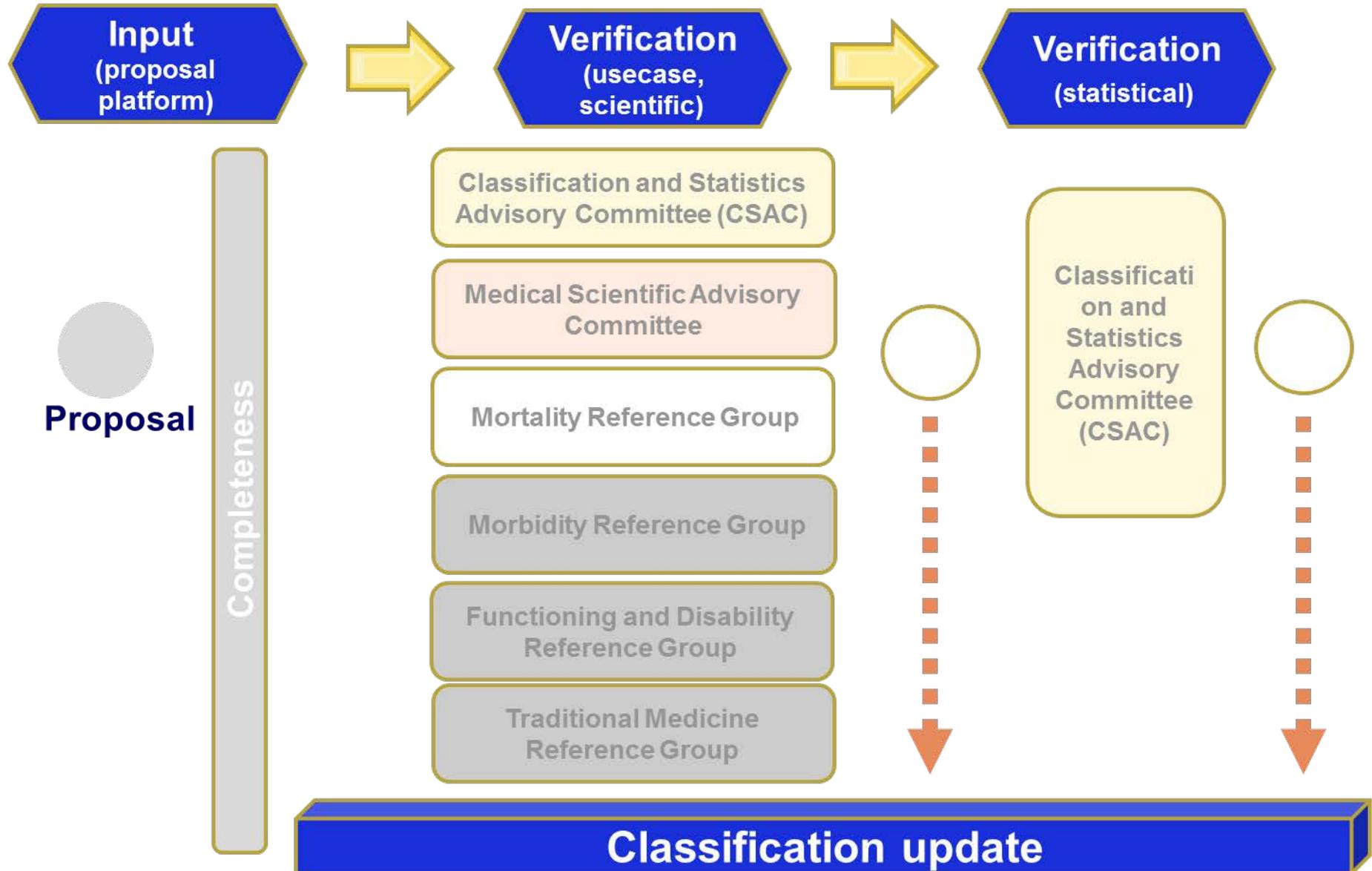
The updating is carried out at different levels with different frequencies. That will keep stability for mortality and allow quicker updates for morbidity use.

10 years - Mortality and morbidity rules

5 years - Updates that impact on international reporting (the 4 and 5-digit structure of the stem codes) will be published every five years.

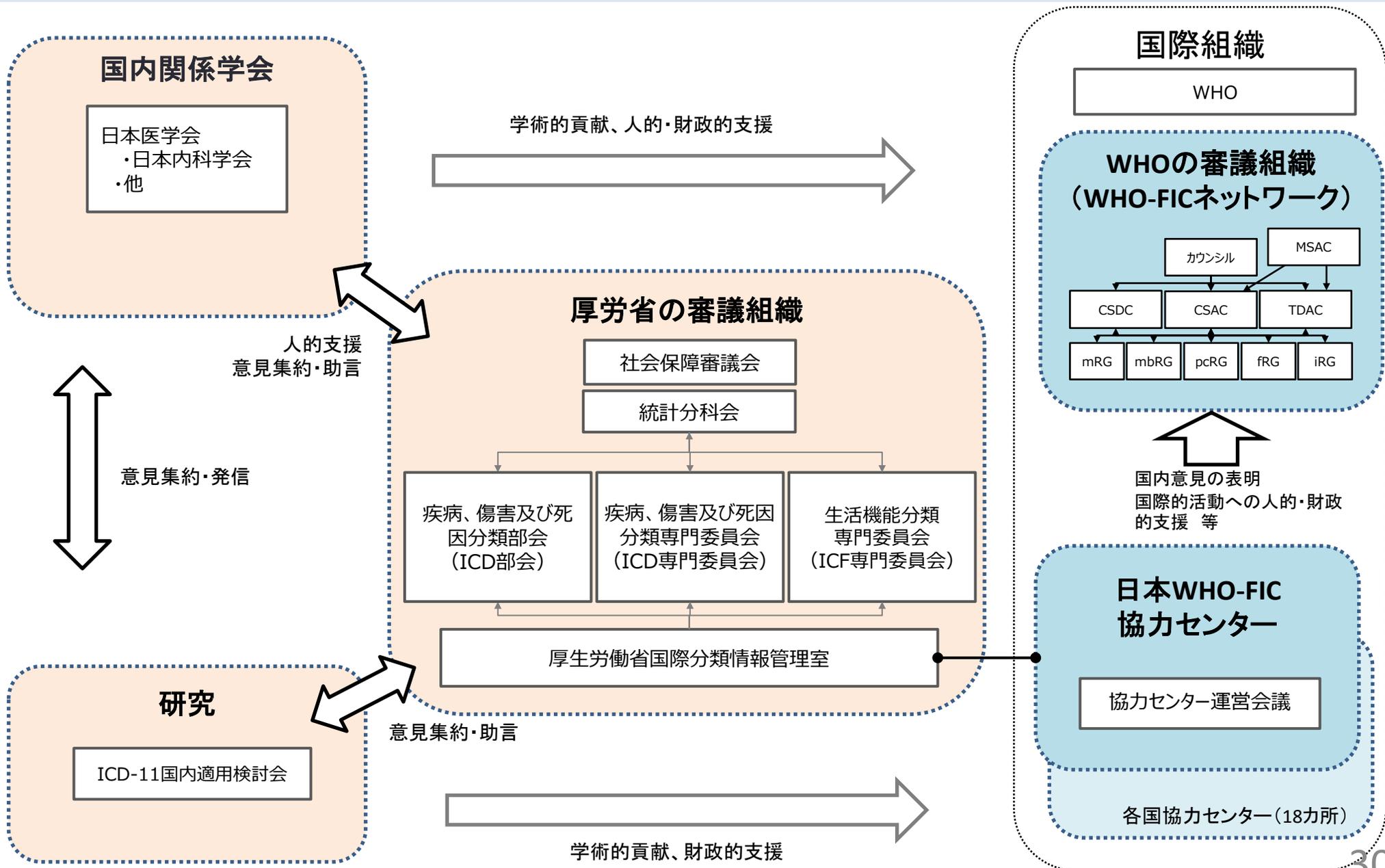
1 year - Updates at a more detailed level

1 year - Additions to the index or extension codes

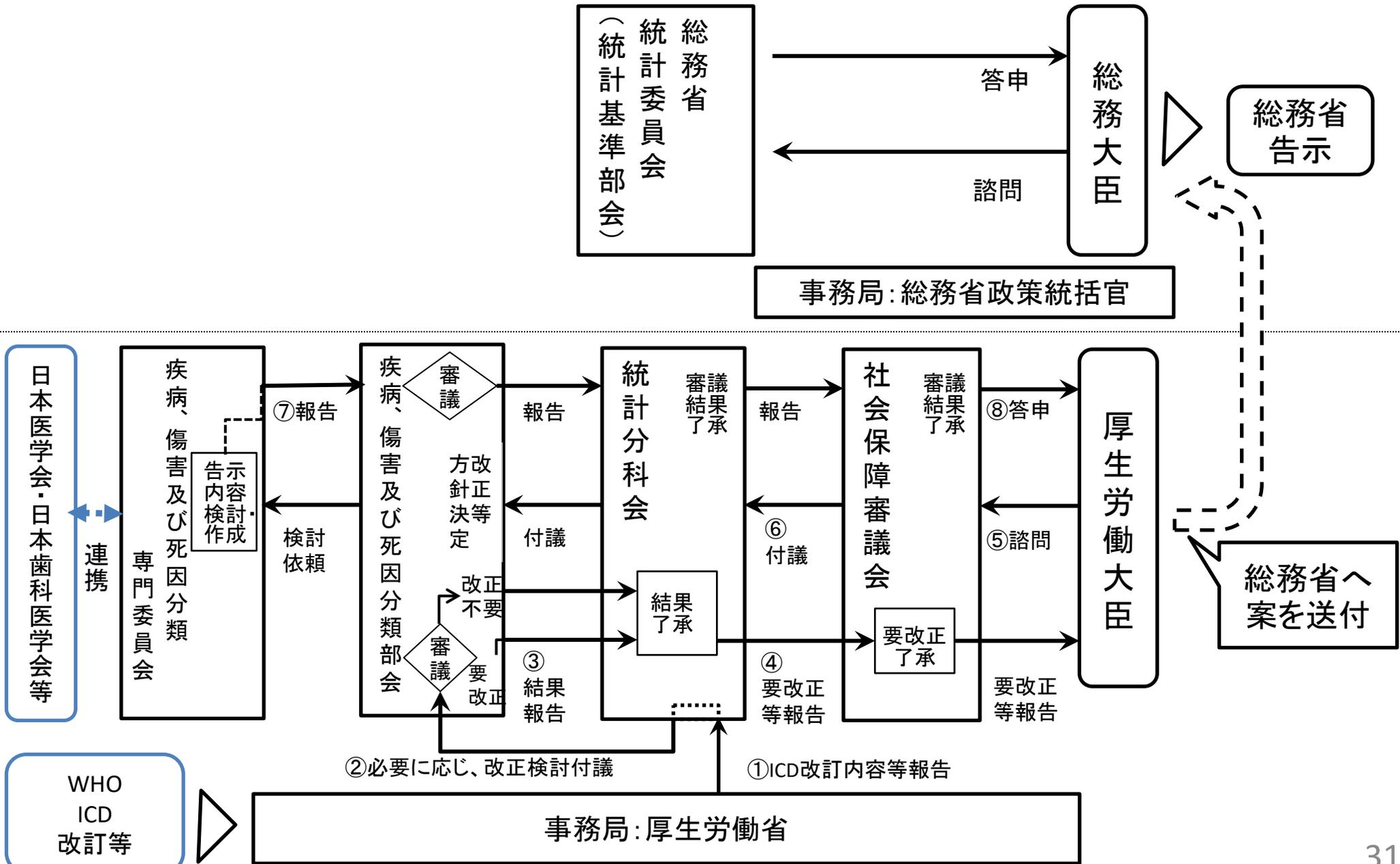


ICD-11の国内適用に向けて

我が国におけるICD検討体制



統計法告示改正の流れ



構成員名簿

公益社団法人日本医師会副会長	今村 聡
鹿児島大学病院医療情報部長	宇都 由美子
東京大学大学院医学系研究科医療情報経済学分野教授	大江 和彦
東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野教授	川口 陽子
国立保健医療科学院長	新村 和哉
自治医科大学長	永井 良三
国立研究開発法人 国立がん研究センター理事長	中釜 斉
国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長	林 玲子
東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻臨床疫学・経済学教授	康永 秀生
東京大学大学院医学系研究科内科学専攻 病態診断医学講座 臨床病態検査医学分野 東京大学医学部附属病院 検査部長	矢富 裕

< 告示対象範囲及び和訳対象範囲について >

(優先検討事項)

①死亡・疾病統計用分類 (MMS) の分類名 (章・ブロック名を含め約32,000)

※対象とする章も検討が必要 (第1章～第26章 (約18,000)、第V章 生活機能評価の補助セクション (約100)、第X章 エクステンション・コード: 約14,000)

②MMSの索引用語 (約10万語 (分類名を含む))

③レファレンス・ガイド (ICD-10第2巻総論に相当、約300頁超)

④ウェブサイト上のユーザーガイド

⑤インターフェイスなどウェブサイトを利用する上で必要なその他の情報

(上記の後の対応を検討するもの)

⑥MMSの解説文 (Description) 等 ※当面、ウェブサイトは、日英混在となる

⑦ファウンデーションに含まれるその他の情報

➡ ICD-11の告示については、死亡・疾病統計分類 (MMS) の分類表を基本とするが、第V章生活機能評価の補助セクション、第X章エクステンション・コードなど、ICD-10の取り扱いとは異なる分類項目も盛り込まれていることから、WHO等からの情報収集を進めつつ、分類項目の取り扱いや和訳を確認した上で、改めて告示範囲について検討してはどうか。

<分類の利用環境整備>

- ①ICD-11 (MMS) のウェブサイト
- ②MMSの分類項目レベルのエクセルファイル (Simple Tabulation)
- ③コーディング・ツール
- ④MMSの索引用語のエクセルファイル (Index Tabulation)
- ⑤レファレンス・ガイド (ウェブ、PDF)
- ⑥ICD-10とICD-11のマッピングのエクセルファイル (Mapping Tables)
- ⑦ウェブ上のトレーニング・ツール (予定)
- ⑧紙媒体の書籍 (予定、現段階ではWHOから未公表であり、分類表の抜粋のほかどのような内容になるか不明)

➡ WHOでは、電子環境での活用を前提に、多言語対応であるICD-11ウェブサイトを提供している。ICD-11の和訳を作成し、当該ウェブサイトに登録し、オンライン上で使用できるようにしてはどうか。

➡ その他のツール、資料又は書籍の取り扱いについては、WHOが提供する内容や国内での分類使用におけるニーズや維持管理環境等を踏まえて検討してはどうか。

< 疾病分類表（大分類、中分類、小分類）及び死因分類表の見直しについて >

我が国では、ICDに準拠した基本分類表のほか、基本分類を集約した疾病分類表及び死因分類表を定めて、公的統計の表章で使用している。これらの分類表は、疾病分類表は、推定患者数を基準に、死因分類表は死亡数及び社会的な重要度を考慮して設定されたものである。

※WHOによる特定製表用リスト（ICD-10では、死亡製表用リスト4つ、疾病製表用リスト1つ）は、現段階では未公表。

➡ 日本における疾病構造の変化、ICD-11の変更点を踏まえて疾病分類表及び死因分類表の見直しを検討してはどうか。見直しに当たっては、日本の疾病構造、国際比較可能性、現在の分類表との継続性のほか、横断的なデータ利用に配慮し、分類表間の整合性や公的統計で使用されているその他の統計表等を考慮してはどうか。

ICD-11の和訳について（案）

<和訳に当たっての基本方針>

- ①ICD-11の分類全体に共通する定型的な用語は、一貫性のある和訳とする。
- ②直訳がふさわしくない又は一般的ではない場合は、意訳を検討する。
 - ※MMSの分類名に意訳を充てる場合は、特に①に配慮する。
 - ※意訳に際しては、社会的な影響も考慮する一方で、用語の概念・範囲が変わることが無いように十分配慮する。
- ③訳語が複数ある場合は、同義語として追加することを検討する。
- ④直訳が、日本の臨床現場等で使用されておらず、翻訳することが却って混乱を招く可能性がある場合は、英語のまま残すことを検討する。

<既存の訳語との調整について>

- ①ICD-10の既存訳、表記法（山括弧を利用した代替用語の表記の仕方等）も含めて見直しを行う。
- ②日本医学会医学用語辞典等との学術的な整合性に配慮し、仮訳作成の際の参考とする。
- ③ICD10対応標準病名マスター／傷病名マスターにおける用語の使い方も参考とする。

和訳作業ファイルイメージ

#	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	番号	MMS項目名/索引	ICD-11コード	原文病名	事務局案	和訳案	同義語(索引用語として追加すべき用語)	出典、コメント	日本医学会医学用語辞典	ICD-10 / ICD-O	各種ソースから生成した参考	ICD-10コード	M: マスタ交換用コード・N: 異語		
38952	13	疾病用語	DB75.0	spasmodic proctalgia								K89.4			2
38953	13	ブロック	DB9Z	Diseases of liver	肝臓の疾患							K70-K77	DERG		
38954	13	疾病用語	DB9Z	liver disease	肝疾患							K70-K77			
38955	13	分類項目	DB90.Z	Infectious liver disease								K70-K77			
38956	13	疾病用語	DB90.Z	acute hepatic infection								K70-K77			
38957	13	疾病用語	DB90.Z	acute bacterial hepatitis								K70-K77			
38958	13	疾病用語	DB90.Z	acute idiopathic hepatitis								K70-K77			
38959	13	疾病用語	DB90.Y	Epstein-Barr viral hepatitis								K70-K77			
38960	13	疾病用語	DB90.Y	EBV hepatitis								K70-K77			
38961	13	分類項目	DB90.0	Abscess of liver	肝臓の膿瘍							K78.0			7
38962	13	疾病用語	DB90.0	Hepatic abscess NOS	肝膿瘍NOC							K78.0	ERE2		7
38963	13	疾病用語	DB90.0	pylephlebitic hepatic abscess								K78.0			7
38964	13	疾病用語	DB90.0	Bacterial liver abscess								K78.0			7
38965	13	疾病用語	DB90.0	Pyogenic liver abscess								K78.0			7
38966	13	疾病用語	DB90.0	pyogenic hepatic abscess								K78.0			7
38967	13	疾病用語	DB90.0	Cholangitic liver abscess								K78.0			7
38968	13	疾病用語	DB90.0	cholangitic hepatic abscess								K78.0			7
38969	13	疾病用語	DB90.0	Haematogenic liver abscess								K78.0			7
38970	13	疾病用語	DB90.0	haematogenic hepatic abscess								K78.0			7
38971	13	疾病用語	DB90.0	Lymphogenic liver abscess								K78.0			7
38972	13	疾病用語	DB90.0	lymphogenic hepatic abscess								K78.0			7
38973	13	疾病用語	DB90.0	Capillaritis due to Capillaritis hepatica								K78.0			7
38974	13	疾病用語	DB90.Y	Other infectious liver diseases								K70-K77			
38975	13	疾病用語	DB90.Y	Fungal infection of liver								K70-K77			
38976	13	疾病用語	DB90.Y	Parasitic infection of liver	肝臓の寄生虫感染							K70-K77			
38977	13	疾病用語	DB90.Y	Malarial hepatopathy								K70-K77			
38978	13	分類項目	DB91.Z	Acute or subacute hepatic failure								K72.0			4
38979	13	疾病用語	DB91.Z	acute hepatic insufficiency								K72.0			4
38980	13	疾病用語	DB91.Z	acute liver insufficiency								K72.0			4
38981	13	疾病用語	DB91.Z	acute hepatic failure								K72.0			4
38982	13	疾病用語	DB91.Z	acute liver failure								K72.0			4
38983	13	疾病用語	DB91.Z	Fulminant hepatitis with hepatic failure								K72.0			4

↑ B列：分類レベルの別（色付きの行は告示対象予定）

↑ D列：原文

↑ E列：事務局仮訳

《ご入力いただきたい箇所》

F列：和訳案（代表語、複数入力不可）

G列：同義語（ある場合、複数入力可）

H列：コメント（〇〇学会への照会が必要、引用した訳語の出典（可能な場合は、用語コード等）、事務局案を変更した理由等）

参考訳等

I列：日本医学会医学用語辞典

J列：ICD-10又はICD-Oの訳語

※I, J列は英語が完全一致するもののみ

K列：上記を含め各種ソースを元に機械的に生成された訳語（研究班）

L列：参考ICD-10コード（分類項目レベルでのマッピング）

M~O列：L列のICD-10コードに対する「ICD10対応標準病名マスター・傷病名マスター・準病名マスター」の用語

章

ブロック（コードは付かない）

分類項目

索引用語

	A	B	C	D	E
1	章番号	MMS項目名 ／索引用語	ICD-11 コード	原文用語名	事務局案
35933	13	索引用語	DB92.Y	steatosis liver NOS	
35934	13	分類項目	DB93	Hepatic fibrosis or cirrhosis	肝線維症又は肝硬変
35935	13	索引用語	DB93	fibrosis and cirrhosis of liver	肝線維症又は肝硬変
35936	13	分類項目	DB93.0	Hepatic fibrosis	肝線維症
35937	13	索引用語	DB93.0	Hepatic sclerosis	肝硬化症
35938	13	索引用語	DB93.0	Hepatic fibrosis with hepatic sclerosis	肝硬化症を伴う肝線維症
35939	13	索引用語	DB93.0	fibrosis of liver	
35940	13	索引用語	DB93.0	liver fibrosis	肝線維症
35941	13	索引用語	DB93.0	Hepatic fibrosis due to Schistosomiasis without portal hypertension	門脈圧亢進症を伴わない住血吸虫症
35942	13	索引用語	DB93.0	fibrotic liver	
35943	13	索引用語	DB93.0	Oesophageal varices with bleeding in hepatic fibrosis	肝線維症における出血を伴う食道静脈瘤
35944	13	分類項目	DB93.1	Hepatic cirrhosis	肝硬変
35945	13	索引用語	DB93.1	liver cirrhosis	肝硬変
35946	13	索引用語	DB93.1	cirrhosis NOS	硬変NOS
35947	13	索引用語	DB93.1	Decompensated liver cirrhosis	非代償性肝硬変
35948	13	分類項目	DB93.2	Certain specified fibrosis or cirrhosis of liver	特定の明示された肝線維症又は肝硬変
35949	13	索引用語	DB93.2	Secondary biliary cirrhosis	続発性胆汁性肝硬変
35950	13	索引用語	DB93.2	Biliary cirrhosis, unspecified	胆汁性肝硬変、詳細不明
35951	13	索引用語	DB93.2	cryptogenic cirrhosis of liver	特発性肝硬変
35952	13	索引用語	DB93.2	macronodular cirrhosis of liver	
35953	13	索引用語	DB93.2	micronodular cirrhosis of liver	
35954	13	索引用語	DB93.2	mixed type cirrhosis of liver	
35955	13	索引用語	DB93.2	portal cirrhosis of liver	
35956	13	索引用語	DB93.2	postnecrotic cirrhosis of liver	
35957	13	分類項目	DB93.20	Hereditary North American Indian childhood cirrhosis	
35958	13	分類項目	DB93.21	Idiopathic copper-associated cirrhosis	
35959	13	索引用語	DB93.21	Non-Wilsonian hepatic copper toxicosis of infancy and childhood	
35960	13	索引用語	DB93.21	Copper excess	

英語に対する訳語が複数ある場合
 →代表語を一つ選択し、「和訳案」に入力。
 その他の訳語は、「同義語」として入力してください。複数の同義語がある場合は、セミコロンで区別をお願いいたします(同義語1;同義語2;同義語3)
 ※なお、「同義語」は、索引語としてブラウザ上に掲載すべきと考えられるものを入力してください。例えば、「肝線維症」に対し「肝せんい症」等を入力する必要はありません。

英語が異なるが、和訳は同じ
 →同じ訳語を複数回ご使用いただいて構いません。
 ↓
 索引語として
 ・ 肝硬変(Hepatic cirrhosis)
 ・ 肝硬変(liver cirrhosis)
 と表示することを予定
 但し、同一語の数等を考慮して調整させていただく場合があります。

ICD独特の訳語にもご配慮をお願いします

XXX, unspecified	〇〇、詳細不明
Certain specified XXX	特定の明示された〇〇
XXX NOS	〇〇NOS 他に記載のないものという意味です
and	及び ICD-11では「且つ」を意味します
or	又は

別シートに事務局で使用した定型訳の例がございます。

具体例：

依頼ファイル

	原文	事務局案	代表語	同義語	出典、コメント
CA23.20	Aspirin-induced asthma	アスピリン誘発性喘息			
CA0A.0	AERD - [aspirin exacerbated respiratory disease]				
X章	Aspirin	アスピリン			

- ① Aspirin-induced asthmaに対する訳語として、事務局案が適切かを確認
→OK：代表語列に訳語をコピー
- ② 臨床現場で頻繁に使用されている同義語がないかを確認→アスピリン喘息、NSAIDs過敏喘息がある
→同義語列に アスピリン喘息；NSAIDs過敏喘息 を追加（同義語はコロンで区切り）
- ③ 可能であれば、用語の出典を追記
- ④ 上記、AERD - [aspirin exacerbated respiratory disease]のように事務局案がない場合は、訳語を作成
→AERD [アスピリン増悪呼吸器疾患] を入力し、同義語を確認。前出の同義語としたNSAIDs過敏喘息は、こちらの同義語が適切なため、前の入力を修正。

※代表語の候補に優劣がない場合は、直訳を優先させてください（分類全体の訳語の統一感を出すため）。

※和訳作業の中で、お気づきの分類の問題点は、コメント欄への記載ではなく、改正提案として、WHOのプロポーザルプラットフォームにて意見提出をお願いいたします。例：AERDが本来は、アスピリン喘息の同義語となるべきといったような場合。

回答ファイル

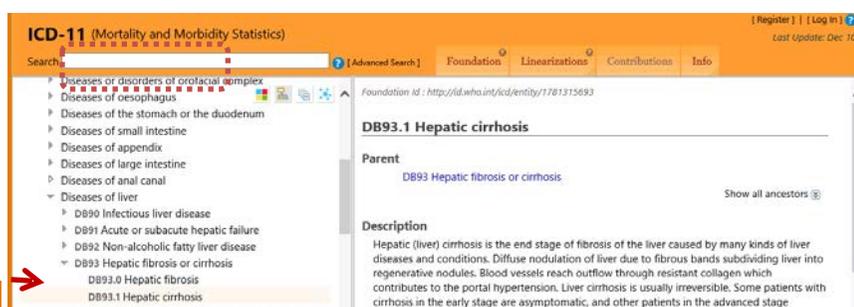
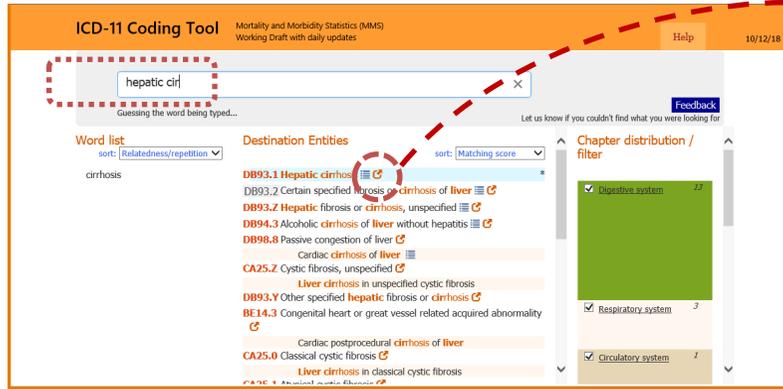
	原文	事務局案	代表語	同義語	出典、コメント
CA23.20	Aspirin-induced asthma	アスピリン誘発性喘息	アスピリン誘発性喘息	アスピリン喘息	〇〇学会用語辞典、ガイドライン
CA0A.0	AERD - [aspirin exacerbated respiratory disease]		AERD [アスピリン増悪呼吸器疾患]	NSAIDs過敏喘息	◇◇学会との調整が必要
X章	Aspirin	アスピリン			

和訳の際には是非ご活用いただきたいツール

1. ICD-11ブラウザ・コーディングツール

<https://icd.who.int/dev11/l-m/en>

https://icd.who.int/devct11/icd11_mms/en/current/#/

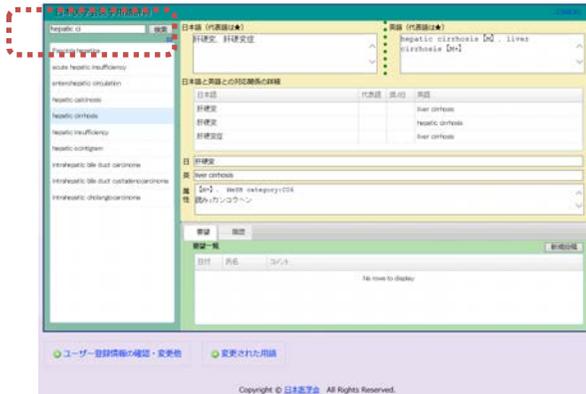


■ 和訳の際には、分類体系を踏まえることでより適切な訳となると考えられます。作業エクセルファイルだけでは分類構造の表示が困難なため、WHO提供のウェブツールをご活用ください。分類内の類似する用語の検索等も参考になる可能性があります。

■ なお、エクセルファイルは、2018年6月18日固定版（ブラウザの帯が青色）を元に作成されていますが、この版はウェブ上では索引用語が表示されないため、ご確認の際は日々更新されているこちらのオレンジ色のブラウザをご参照ください。時点が異なるため、エクセルファイルとブラウザでコード番号等に若干の異動がある可能性があります。

2. 日本医学会医学用語辞典Web版

<http://jams.med.or.jp/dic/mdic.html>



■ 学術的な整合性に配慮した訳語を作成するため、日本医学会が整備している日本医学会医学用語も是非ご参照ください。エクセルにも英語で完全一致する一部の情報を掲載しておりますが、ウェブでご確認いただくとより多くの情報が得られます。

■ 日本医学会分科会は、分科会ごとに通知されたIDがございます。個人でIDを作成することも可能です。

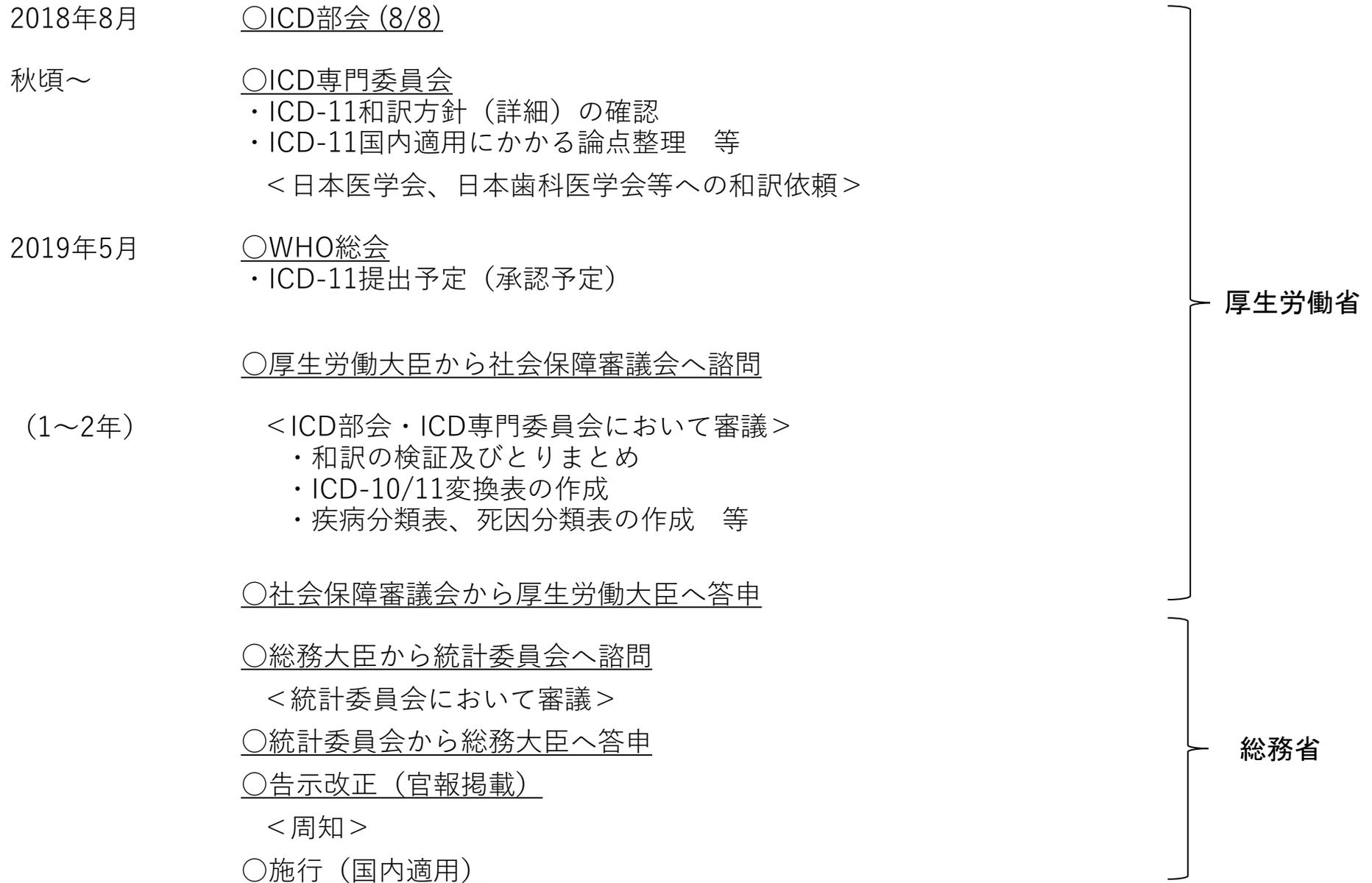
3. その他

● ICD-10 (2016年版) (英語) : <https://icd.who.int/browse10/2016/en>

● ICD-10 (2013年版) 準拠 (日本語) : <https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippe/>

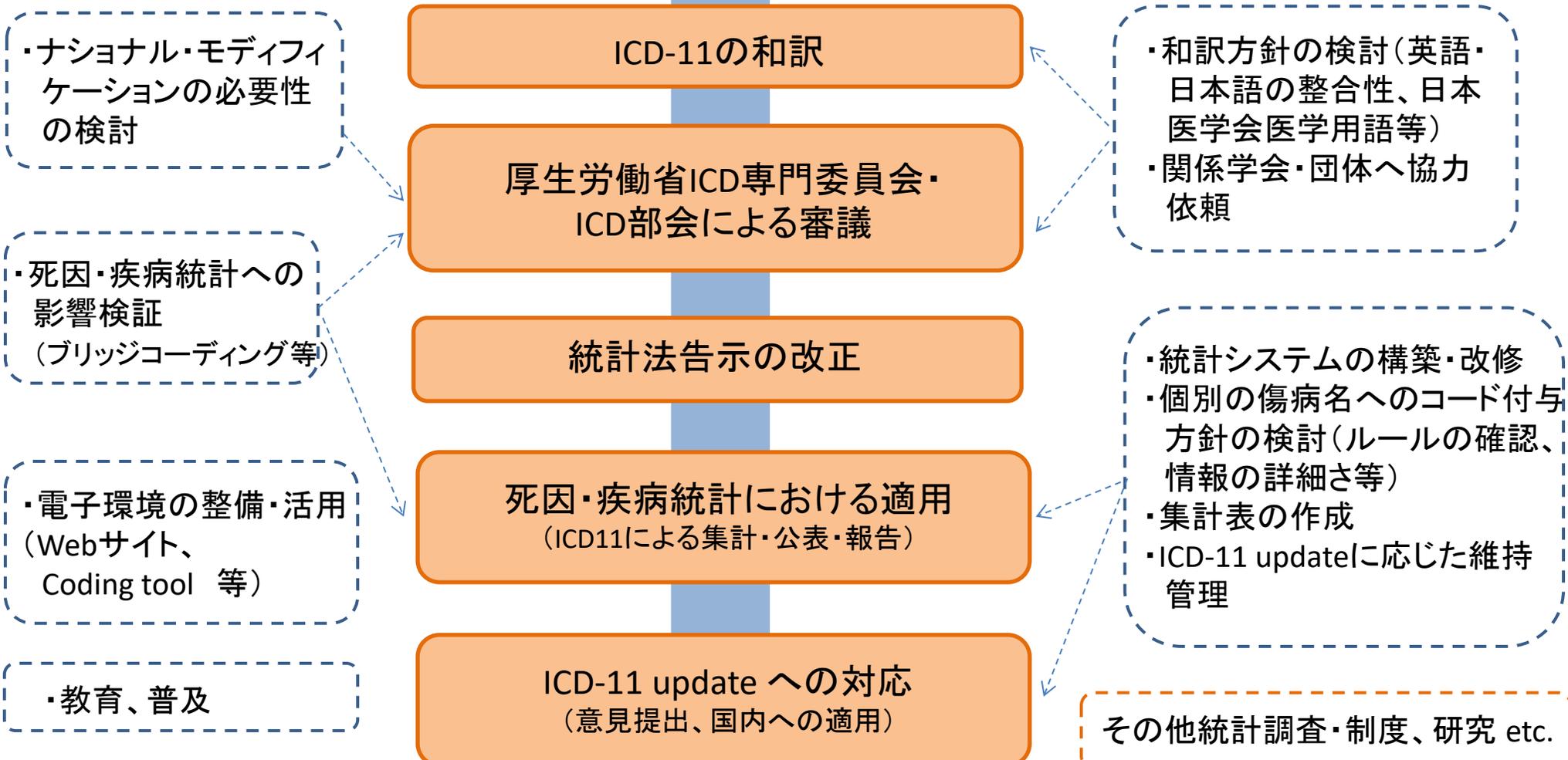
● ICD10対応標準病名マスター・傷病名マスター4.05版(2018.6) <http://www.dis.h.u-tokyo.ac.jp/byomei/>

統計法告示改正の流れ



国内導入に向けて (死因・疾病統計におけるイメージ)

ICD-11の公表 (WHO)



(参考) 主なOECD 加盟国におけるICD適用年

<OECD 死因統計の報告>

	ICD-9	ICD-10
WHO (改訂年)	1975	1990
オーストラリア	1979 - 1997	1998 - 2004, 2006 -
カナダ	1979 - 1999	2000 -
フランス	1979 - 1999	2000 -
ドイツ	1900 - 1997 (1979 - ドイツ連邦共和国/ ドイツ民主共和国)	1998 -
日本	1979 - 1994	1995 -
韓国	1985 - 1994	1995 -
イギリス	1979 - 1999	2001 -
アメリカ	1979 - 1998	1999 -

OECD Health Statistics, Definitions, Sources and Methods, Causes of mortality より編集
<http://www.oecd.org/els/health-systems/Table-of-Content-Metadata-OECD-Health-Statistics-2017.pdf>

	WHO	日本適用期間	(年間)	米国適用期間	(年間)
ICD-1	1900	1899 ~1908	9	1900 ~1909	9
ICD-2	1909	1909 ~1922	13	1910 ~1920	10
ICD-3	1920	1923 ~1932	9	1921 ~1929	8
ICD-4	1929	1933 ~1945	12	1930 ~1938	8
ICD-5	1938	1946 ~1949	3	1939 ~1948	9
ICD-6	1948	1950 ~1957	7	1949 ~1957	8
ICD-7	1955	1958 ~1967	9	1958 ~1967	9
ICD-8	1965	1968 ~1978	10	1968 ~1978	10
ICD-9	1975	1979 ~1994	15	1979 ~1998	19
ICD-10	1990	1995 ~2005	27	1999 present	18
ICD-10 (2003)	2003	2006 ~2015			
ICD-10 (2013)	2013	2016 present	?		
ICD-11	2019	?			

● ICD-10 (初版)
1990年公表→1994年告示→1995年適用

● ICD-10 (2013年版)
2013年公表→2015年告示→2016年適用

ICHI

International Classification of
Health Interventions

ICHIとは

International Classification of Health Interventions

- WHO(世界保健機関)が開発している国際的な医療行為等の分類
- 医療行為等の分類として、7,000以上の項目から構成 (2017年10月現在)
- 「Health Intervention」の定義

A health intervention is an act performed for, with or on behalf of a person or a population whose purpose is to improve, assess, maintain, promote or modify health, functioning or health conditions

- 内科的・外科的医療行為の他、精神保健、看護、公衆衛生等における介入も含む。



ICHI の開発

開発の流れ	
2007年	WHO-FICネットワーク会議にて、ICHIの開発を開始
2012年	WHOのプロジェクトとして、ICHIの開発を継続
2016年	ICHI- α 版(2016)の発表
~2017年6月	ICHI- α 版(2016)のレビュー
2017年	ICHI- β 版(2017)の発表 (WHO-FICメキシコ会議)
2018年	フィールドテストの実施、レビュー
	ICHI- β -2版(2018)の発表 (WHO-FIC韓国会議) 
	フィールドテストの実施、レビュー
2019年	プレファイナルバージョンの発表

ICHI Beta 2017 <https://mitel.dimi.uniud.it/ichi/#>

1. Interventions on Body Systems and Functions

身体各部位への介入

- ・治療(手術・放射線療法など)
- ・検査(生検・生理検査・画像検査・心理検査など)
- ・リハビリテーション 等

2. Interventions on Activities and Participation Domains

- ・対人関係への介入
- ・社会生活への介入 等

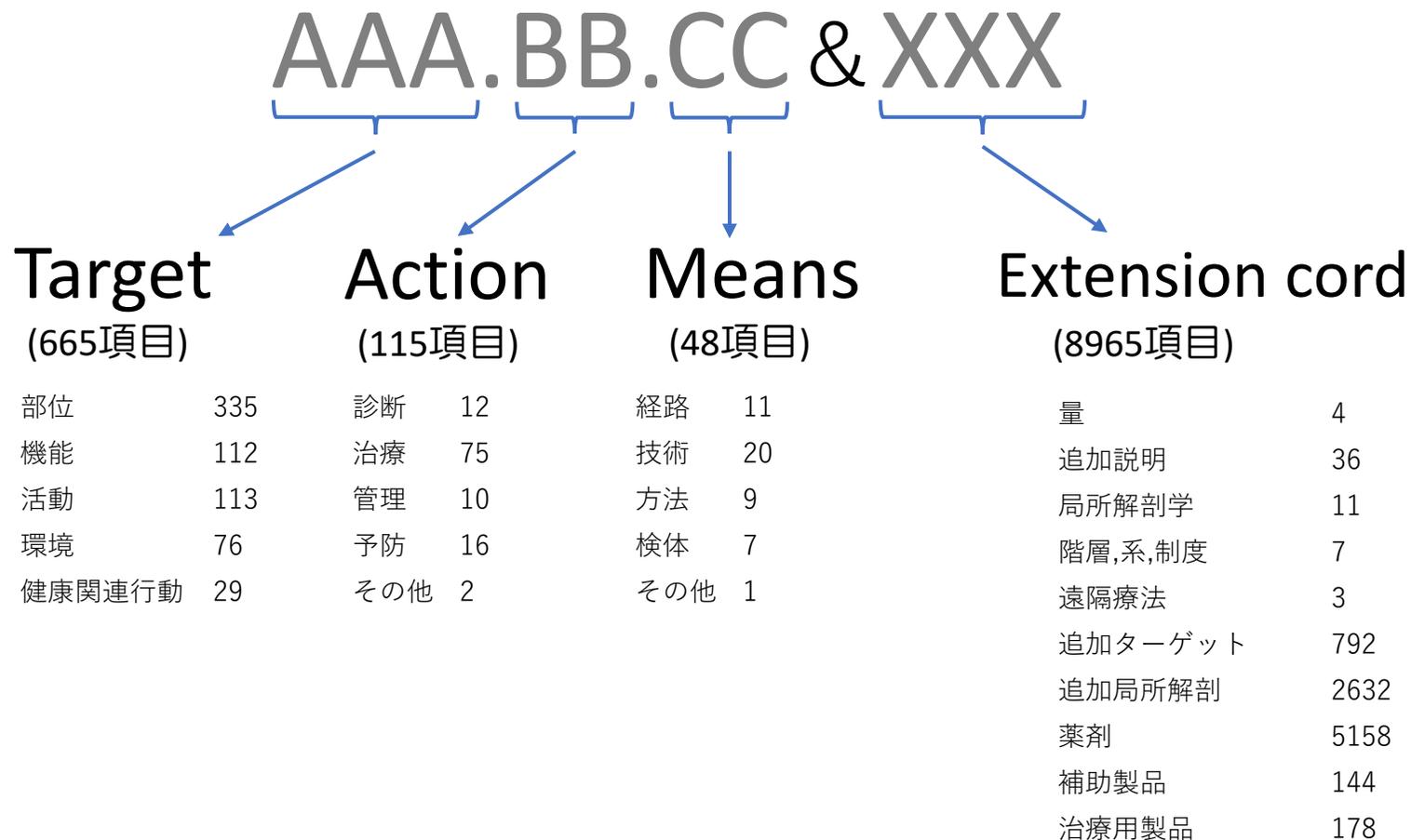
3. Interventions on the Environment

- ・自然環境への介入(水質の評価・介入など)
- ・政策評価・立案 等

4. Interventions on Health-related Behaviours

- ・アルコール摂取行動への介入
- ・食行動への介入 等

$$\text{ICHI cord} = \text{Stem cord (6275種)} + \text{Extension cord (8965種)}$$



ICHI Beta 2017 Search ICHI Info Sign in

ICHI Beta 2017

Section

- 1. Interventions on Body Systems and Functions
- 2. Interventions on Activities and Participation Domains
- 3. Interventions on the Environment
- 4. Interventions on Health-related Behaviours

ICHI Beta 2017

Welcome to the browser for the International Classification of Health Interventions Beta 2017.

You can browse the ICHI proposed content here.

Here you can find further information:

- ICHI Beta 2017
- Acknowledgements
- Introduction
- Draft ICHI Guidelines
- ICHI Platform User Guide

CAVEATS

ICHI Beta 2017 is:

- NOT FINAL
- updated on regular basis
- It is not approved by WHO
- NOT TO BE USED for CODING except for agreed FIELD TRIALS

ICHI Beta 2017 Search ICHI Info Sign in

ICHI Beta 2017

Section

- 1. Interventions on Body Systems and Functions
 - 1. Interventions on the Nervous System and Mental Functions
 - 2. Interventions on the Visual System
 - 3. Interventions on the Ear and Mastoid
 - 4. Interventions on the Haematopoietic and Lymphatic System
 - 5. Interventions on the Endocrine System
 - 6. Interventions on the Circulatory System
 - 7. Interventions on the Respiratory System and Voice and Speech
 - 8. Interventions on the Digestive System
 - KA - Mouth and pharynx
 - KB - Gastrointestinal tract
 - KBA AB AC - Oesophageal manometry
 - KBA AD AA - Open biopsy of oesophagus
 - KBA AD AB - Thoracoscopic biopsy of oesophagus
 - KBA AD AD - Endoscopic biopsy of oesophagus
 - KBA AD AE - Percutaneous biopsy of oesophagus
 - KBA AE AD - Oesophagoscopy
 - KBA BA BA - X-ray of oesophagus
 - KBA DB AD - Endoscopic administration of agent into lesion of oeso

KBF JK AB ICHI Comments

ICHI code	KBF JK AB
Target	KBF - Stomach
Action	JK - Excision, total
Means	AB - Endoscopic/Transparietal endoscopic
ICHI descriptor	Laparoscopic total gastrectomy
Definition	
Inclusion Terms	Laparoscopic complete gastroduodenectomy; Laparoscopic oesophagoduodenostomy with complete gastrectomy; Laparoscopic oesophagogastrectomy, NOS; Laparoscopic oesophagojejunostomy with complete gastrectomy; Laparoscopic radical gastrectomy; Laparoscopic total gastrectomy with intestinal interposition
Includes Notes	
Codealso	
Excludes Notes	

(参考) 保健医療分野の主な公的データベースの状況

平成30年4月19日
 社会保障審議会医療保険部会資料

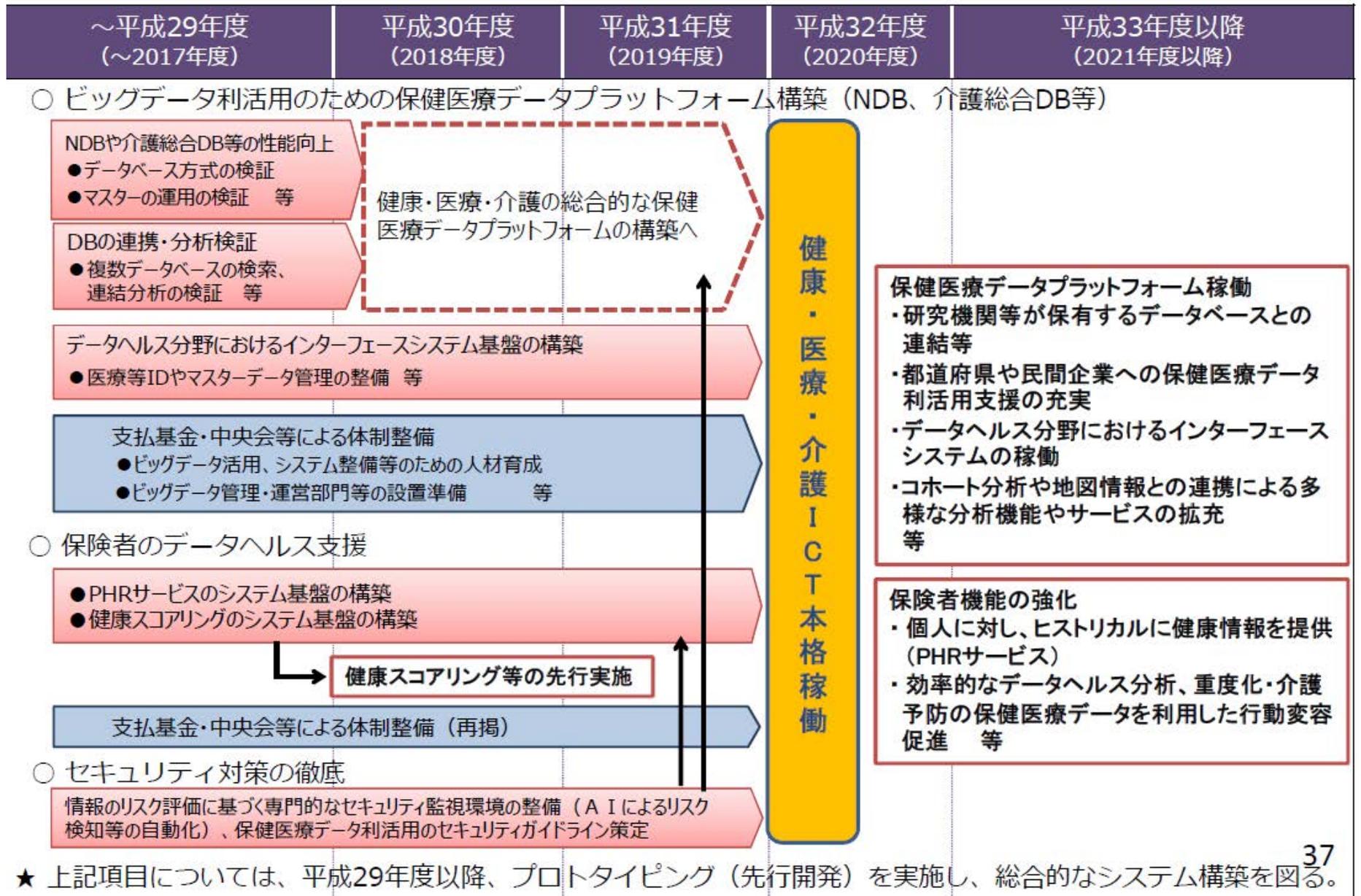
保健医療分野においては、近年、それぞれの趣旨・目的に即してデータベースが順次整備されている。
 主な公的データベースの状況は下表のとおり。

データベースの名称	NDB (レセプト情報・特定健診等 情報データベース) (平成21年度～)	介護DB (平成25年～)	DPCDB (平成29年度～)	全国がん登録DB (平成28年～)	難病DB (平成29年～)	小慢DB (平成28年度～)	MID-NET (平成23年～)
元データ	レセプト、 特定健診	介護レセプト、 要介護認定情報	DPCデータ (レセプト)	届出対象情報、 死亡者情報票	臨床個人調査 票	医療意見書情 報	電子カルテ、 レセプト 等
主な情報項目	傷病名(レセ プト病名)、 投薬、健診結 果 等	介護サービスの 種類、要介 護認定区分 等	・簡易診療録 情報 ・施設情報 等	がんの罹患、 診療、転帰 等	告示病名、生 活状況、診断 基準 等	疾患名、発症 年齢、各種検 査値 等	・処方・注射 情報 ・検査情報 等
保有主体	国 (厚労大臣)	国 (厚労大臣)	国 (厚労大臣)	国 (厚労大臣)	国 (厚労大臣)	国 (厚労大臣)	PMDA・ 協力医療機関
匿名性	匿名	匿名	匿名	顕名	顕名 (取得時に 本人同意)	顕名 (取得時に 本人同意)	匿名
第三者提供の有無	有(※1) (平成25年度 ～)	有(※1) (平成30年度 ～開始予定)	有 (平成29年度 ～)	有 (詳細検討 中)	無 (検討中)	無 (検討中)	有 (平成30年度 ～)
根拠法	高確法16条	介護保険法 118条の2	— (告示)	がん登録推進 法第5、6、 8、11条	—	—	PMDA法 第15条

※1 NDBについては、「レセプト情報・特定健診等情報の提供に関するガイドライン」に基づき個別審査を行った上で第三者提供を実施。
 介護DBも、NDBのスキームを基本的に踏襲し、第三者提供を行う予定。

※2 上記に加え、生活保護の分野では、福祉事務所がデータに基づき被保護者の生活習慣病の予防等を推進する「被保護者健康管理支援事業」を創設し、同事業の実施に資するため、国が全国の被保護者の医療データを収集・分析することを内容とする「生活困窮者等の自立を促進するための生活困窮者自立支援法等の一部を改正する法律案」を平成30年通常国会に提出。

国民の健康確保のためのビッグデータ活用推進に関するデータヘルス改革推進計画・工程表



保健医療データプラットフォーム稼働

- ・研究機関等が保有するデータベースとの連結等
- ・都道府県や民間企業への保健医療データ利活用支援の充実
- ・データヘルス分野におけるインターフェースシステムの稼働
- ・コホート分析や地図情報との連携による多様な分析機能やサービスの拡充等

保険者機能の強化

- ・個人に対し、ヒストリカルに健康情報を提供 (PHRサービス)
- ・効率的なデータヘルス分析、重度化・介護予防の保健医療データを利用した行動変容促進 等

ご静聴ありがとうございました



Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan
For people, for life, for the future